

講習会講師陣のプロフィール

ピアノ・ソロ&ピアノ伴奏法

Prof. Dr. Gabriel Cervone (ガブリエル・チェルヴォーネ)

ドイツの名門、ハンブルグ国立音楽大学ピアノ教授。ヨーロッパ諸国での数々の演奏会開催。演奏の傍ら、音楽学者（Dr）としての研究多数（主なものに、シューベルト初期ソナタの研究）。ソニー、ドイツ・グラムフォン、デッカ等大レコード会社専属クラシック音楽部門アカデミー研究顧問、各会社の音楽関係執筆多数。自身の深い知識に支えられた丁寧な指導力には、定評がある。

Prof. Andreas Stier (アンドレアス・スティアー)

ドイツの名門、ハンブルグ国立音楽大学ピアノ教授。幼少時代に韓国で育ち、ソウル芸術院卒業。ハンブルグ大学にて中国学を修め、その後、ハンブルグ国立音楽大学ピアノ科卒業。31歳で母校の教授就任以来、長年教鞭をとっている。ピアニストとして、ソロ、室内楽共に世界中、特にアジアで多数の演奏活動をしてきた。長い豊かな文化経験による音楽教育は、名教師として特筆されるものがある。

Elke Gravert (エルケ・グラヴェルト)

ドイツ人ピアニスト。多々のコンクールで入賞。ハンブルグ国立音楽大学とリューベック国立音楽大学で学ぶ。在学時に、ドイツ国費留学D A A D奨学金を授与され、ロンドンの名門ギルドホール音楽大学留学。数々の巨匠（ハリーナ・チェルニー・ステファンスカ、デートレフ・クラウス、ハンゼン等）の元で研鑽を積む。在学時に、リューベック国立音楽大学ピアノ講師に抜擢され、同大学にて33年間教授活動。ドイツのピアノ教育に生涯を捧げる名教師。

Elena Sukmanova (エレナ・スクマノヴァ)

ロシア生まれ。サンクト・ペテルブルグの青少年音楽学校卒業後、サンクト・ペテルブルグ国立音楽院にて、ピアノ・ソロ、室内楽、伴奏を学び首席卒業。同校大学院ピアノ科終了。在学中より、ロシア各地で演奏活動。サンクト・ペテルブルグ・フィルハーモニーのソリストに迎えらる。ロシア国内やドイツ・ブ람ス国際音楽コンクール入賞。全ドイツ音楽コンクール等の公式ピアニスト。BrahmsKonservatorium 講師。

Prof. Martin Schumann (マーティン・シューマン)

ドイツ人ピアニスト、教育者。数々のコンクール（全ドイツコンクール「Jugend musiziert」及び、ハンブルク・スタインウェイ・コンクール優勝）、2年間北ドイツ放送の専属ピアニストとして働き、ハンブルク国立音楽大学大学院卒業（国家演奏家資格授与）。以来、ドイツ国内および海外、世界中で数多くのコンサートを意欲的に行ってきた。主要オーケストラとの共演、ピアノリサイタル、室内楽など。また、NDR（北ドイツ放送局）、Radio Bremen、ARD テレビとの共同制作で、レコードやCDを多数録音。30年間に及ぶ、ハンブルグ国立音楽大学教授としての熱心な教育活動は、特筆される。

声楽（発声法、リート、オペラ、コレペティ）

Prof. Carolyn James (キャロライン・ジェームス)

アメリカ人。元メトロポリタンオペラ・花形プリマドンナ。世界中でドラマティック・ソプラノとして演奏してきた大歌手。アリゾナ出身、ジュリアード音楽院卒。17年前より、ドイツに移住、ケルンにて声楽スタジオ開き、数々の名歌手を輩出してきた。現在、ハンブルグ国立音楽大学オペラ科主任教授。大らかで賢い指導法には定評がある。

Prof. Renate Behle (レナーテ・ベーレ)

元ハンブルグ国立音楽大学声楽学科主任教授。ドラマティック・ソプラノ。ミラノ・スカラ座等世界中の主要大歌劇場及び、ザルツブルグ音楽祭など主要音楽祭の常連出演プリマ・ドンナ。その卓越した歌唱は、オペラならず、歌曲でも実力を発揮。名歌手を育て、各歌劇場へ送りだしている。若い歌手達を暖かく援助、熱心な教育者でもある。

HP <http://www.renatebehle.de/index.html>

Mark Bruce (マーク・ブルース)

USA アメリカの東大と言われるイエール大学ドイツ哲学科卒、ニューヨーク出身。ハンブルグ・コンセルヴァトリウム声楽学部長、ハンブルグ国立オペラバス歌手実際の舞台を踏む日常の経験より、様々なアドバイス、深い教養に裏打ちされた多彩な音楽的知識、わかりやすい指導法に定評がある。ハンブルグ国立オペラハウスでの個人レッスン、貴重な体験を持つことができる。

Drothea Stamova (ドロテア・スタモヴァ)

元リューベック国立歌劇場専属コントラルト歌手。ブルガリアに生まれる。当地で国立音楽院卒業後、オペラ歌手としてオペラ劇場で活躍、同時に宗教曲のスペシャリストとして、数々の大教会でソリストを務める。その後ドイツへ移住、各地の歌劇場演奏、歌曲や宗教音楽の演奏会も多々出演。後進の養成に尽力し、数々の生徒をコンクール入賞させ、教師としても力を発揮する。

Bernhard Roeser (ベルンハルト・ローザー)

ドイツ人。ドイツの主要オペラ劇場専属のコレペティ、プレーメン国立音大でも教鞭をとる。現在、ドイツ国立ベルリンオペラ劇場でも活躍している。ハンブルグ国立音楽大学卒業、指揮を巨匠チェリビダッケに師事、ボローニャ大学（イタリア）留学。ピアノはミケランジェリに師事。世界の大演奏家（テオ・アダム、ディースカウ等）との共演多数。ハンブルグでは、演劇舞台の活動もしており、「動き、俳優、舞台、歌」総合芸術を指導できる稀なるコーチ（コレペティとアー）である。

Yukako Margaritoff (マルガリトフ由加子)

コントラルト歌手。大阪教育大学大学院及びイタリア国立ボローニャ音楽大学大学院声楽学科修了、イタリア国家歌手証授与。ソフィア国立歌劇場、ラジオ、テレビ多数出演。ドイツの著名「シュレスヴィヒ・ホルシュタイン国際音楽祭」をはじめとする多数の演奏会、ヨーロッパと北米各地にて実力派インターナショナル歌手として活躍。近年ロンドンにて、今世紀の巨匠 Dr. Stephn Preston とのデュオ演奏会の成功により、世界的賞を授与される。愛知県立芸術大学（教養）、ハンブルグ音楽大学（コンセルヴァトリウム）非常勤講師歴任。

フルート

Prof. Jurgen Franz (ユルゲン・フランツ)

現在ハンブルグ国立音楽大学主任教授、北ドイツ放送交響楽団（現 Elbphilharmonie）首席奏者。ジェームス・ゴールウェイの高弟子。世界的なソリストで、スカラ座管弦楽団&リカルド・ムーティ、ロストロポーヴィチ、ベルリンフィル&クラウディオ・アバド、マリス・ヤンソン、ハイティンク、サイモン・ラトル、バレンボイム、ズービン・メータ等最高峰の指揮者と共演。ヨーロッパのフルート界スターとして、マスタークラス、ソロ、室内楽、レクチャー等情熱をそそぐ。教育者としても世界的に名高い。

HP <http://www.juergenfranz.com/>

Susanne Barner (スザンネ・バーナー)

ドイツ人。フルート界の巨匠、オーレル・ニコレの愛弟子。フランクフルト放送交響楽団を経て、現在ハンブルグの名門オーケストラ、ハンブルグ・シンフォニカ交響楽団首席奏者。ハンブルグ・コンセルヴァトリウム音楽大学フルート講師歴任。オーケストラ活動の他に室内楽や自身のソロ活動も活発に行っている。数々のヨーロッパ（ドイツ中心）の名指揮者との共演は多数。CD録音やラジオ録音（NDR北ドイツ放送交響楽団（現 Elbphilharmonie）、Hessischer Rundfunk放送、WDRライン放送）でも活躍。

MARC SOBOLEWSKI (マーク・ソボレフスキー)

ドイツ人。ドイツ国立ハンブルグ音楽大学卒業。オーケストラフルートソロとフルート教育両方のディプロマ取得。その後、ゲラ（Jean-Claude Gérard）等巨匠の元で研鑽を積む。後進の育成にも大変力を注ぎ、その暖かく広い視野にたった指導法には定評があり。多数のすばらしいフルート奏者を育ててきた。現在ブ람ス音楽大学（コンセルバトリウム）フルート科主任。

Giorgi Khutsishvili-Held (ジョルジ・クティシュヴィリ・ヘルド)

ロシア・グルジア出身。ハンブルグで、名フルート奏者アンゲリカ シュミットの元で研鑽を積み、ドイツ国家演奏家資格取得。Prof. Gerhart Darmstadt, Michael Hartenberg, Jorg Andrees 等にも師事。北ドイツ中心に種々の演奏活動。演奏の本質、「自分の言葉で演奏するのはどうするのか（教育根本＝ヨーロッパの音楽の原点）」をモットーに指導。現在、シュニッケ音楽大学及び、ハンブルグ・Musik und Kulture 音楽専門学校で教鞭をとる。

Liza Butzlaff (リザ・ブツラフ)

ロシア・サンクトペテルブルク音楽院、ドイツ国立ベルリン音楽大学（ハンス・アイスラー）、ドイツ国立ロストック音楽大学大学院修了。Emmanuel Pahud, Andreas Blau 等、数々の巨匠のマスタークラスで研鑽を積む。Buruno 国際フルートコンクール第一位受賞をはじめとするヨーロッパの名コンクール入賞。現在ソリスト、室内楽奏者として、北ドイツ放送交響楽団（NDREIbphilharmonie）等で活躍。世界的なカーネギーホールデビュー等、世界中で演奏を続ける傍ら、後進の指導も熱心に携わる。

Waldo Ceunen (ヴァルド・ケーネン)

ベルギー生まれ、9歳よりフルートを始める。彼はブリュッセルの Carlos Bruneel、ハンブルクの Jürgen Franz、ワイマールの Wally Hase に師事。ハンブルク交響楽団奏者、ハンブルクフィルハーモニー管弦楽団でオーケストラ奏者をスタートする。2008年以来、彼は現在リュベックフィルハーモニーの首席フルート奏者。彼はまた、ヨーロッパの一流オーケストラである NDR-エルブフィルハーモニー管弦楽団（北ドイツ放送交響楽団）やオランダのアムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団、ブリュッセルのラモネ交響楽団にも出演している。2011年以来、彼はハンブルグ音楽大学（Hamburg Konservatorium）で後進の指導をして、優れたフルート指導者として知られている。

Jocelyne Fillion-Kelch (ジョスリーン・フィリオン・ケルヒ)

モントリオール（カナダ）の音楽一家の出身。名門マギル大学でフルートを学び卒業。その後ヨーロッパへ留学。スイスのベルン音楽院とジュネーブ音楽院で研鑽を積む。スイスのベルン交響楽団に入団。その後、ドイツのオルデンブルク州立管弦楽団を経て、ハンブルク・フィルハーモニー管弦楽団のソロフルート奏者を務め、数々の大指揮者と共演。演奏の傍ら、インターナショナル・フルートマスターコースで熱心に後進の指導は好評を博している。ピッコロ、フルート、アルト・バスフルート等様々な種類楽器をこなし、教えている。

クラリネット

Prof. Guido Mueller (グイド・ミュラー)

ハンブルグ国立音楽大学クラリネット学科教授、ハンブルグ青少年の為の国立音楽学校クラリネット及室内楽学科講師。若い奏者からプロまで、幅広くフレキシブルな教授で教育者として高名。暖かく行き届いた生徒との交流、特に後進の指導に力を入れている。

Vlatko Kucan (ヴラトコ・クーサン)

ドイツ人。ハンブルグ国立音楽大学卒業。現在、ハンブルグ国立音楽大学講師。アメリカのオハイオ州立大学にて客員教授歴任。演奏活動は多岐多岐にわたり非凡な才能を発揮する。特にインプロヴィゼーションが得意。専門の、自身のクラリネットの可能性を最大に生かし、クラシックだけでなく、現代音楽、Jazz、多種類のアンサンブル、フィルム音楽にも奇才のエネルギーを発揮。世界中で演奏する。

Fedor Erfurt (フェドール・エアフルト)

故郷のロシアにて、サラトフ国立音楽院、その後ドイツでハンブルグ国立音楽大学にて Prof. Mueller、ブレーメン国立音楽大学にて Prof. Thomas の元で研鑽を積む。数々の国際コンクール（ソロと室内楽）入賞。現在ハンブルグ拠点に、毎シーズン著名ホールに出演。彼の率いる Saiten Wind Trio の室内楽演奏会は、常時超満員。演奏と後進の指導両方に精力的に活動している。

Vitaliy Zolotonosov (ヴィタリー・ツォロトノソフ)

ブラームス音楽大学（コンセルヴァトリウム）クラリネット学科主任。ロシア人。ドニエツク国立音楽院首席卒業。西ヨーロッパに出て、フィルハーモニー交響楽団の首席クラリネット奏者を14年間勤める。オーケストラの他に1991年より、著名なブラスアンサンブル „Ot-Azoy“ 結成して、ヨーロッパ各地で活動。暖かい、熱心な指導は、多数の素晴らしいクラリネット奏者を育ててきた。

Alexander Vakarschuk (アレキサンダー・ヴァカルチュク)

ロシア・ウクライナ出身。ロシアの音楽大学卒業後、ルーマニア国立ジェルゲ・リマ音楽院で研鑽後、故郷のオーケストラ首席クラリネット奏者として活躍。その後、ドイツに移住、ブラームス音楽院クラリネット学科卒業、ドイツ国家演奏家証取得。ハンブルグを本拠に活動する。広い視野にたったレッスンには、定評がある。

Walter Hermann (ヴァルター・ヘルマン)

ドイツ人名クラリネット奏者。ドイツで二番目のベストオーケストラ、NDR 北ドイツ放送交響楽団（現 Elbphilharmonie）のトップ奏者を長年勤めてきたベテラン。現在も現役で活躍。物静かで、忍耐のある教育者としても定評がある。演奏会は、世界の著名指揮者と共に世界中出演している。

オーボエ

Thomas Rohde (トーマス・ローデ)

ドイツ人名オーボエ奏者、教師。20歳にしてドイツ・マンハイム国立劇場にて首席オーボエ奏者を務め、1988年より現在に至りハンブルク州立歌劇場管弦楽団首席オーボエ奏者。小沢征爾指揮の斉藤記念オーケストラでも演奏。バイエルン国立劇場、ベルリンオペラ、ドイツオペラ、ミュンヘンシンフォニカ、その他放送局などにて、世界的に有名な指揮者、ズービン・メーター、ロリン・マゼール、ジェームズ・レヴァイン、エッシェンバッハらと共演。世界中でマイスターコースを行い、後進の指導にも力を入れている。

Birgit Busch (ビルギット・ブーシュ)

ドイツ人。ドイツ国立ハンブルグ音楽大学にてオーボエソロとオーボエ教育法の両方のディプロム取得。Winfried Liebermann 及び Heinz Nordbruch Studies に師事。1978年以来、様々なオーケストラや室内楽アンサンブル、多数のコンサート活動を国内外でしてきた。ハンブルグの音楽学校講師として後進の指導にあたる傍ら、歴史的な楽器としてのオーボエの研究（その伝統と演奏）をライフワークとしている。ハンブルグ・オーボエ協会会員。

Volker Kraus (ヴォルカー・クラウス)

1968年、ラインラント生まれのドイツ人オーボエ奏者、教育者。ケルン、リューベック、ベルリンで学ぶ。多数のオーケストラ（例えば WDR 交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、デンマーク国立放送オーケストラ等）と共演。室内楽のメンバーとしても引っ張りだこである。演奏のみならず、教育者としても優秀で、ハンブルク音楽大学教授（コンセルバトリウム）。長年にわたりオーボエ教師として、その豊かな経験を、後進の指導に生かし、素晴らしいオーボエ奏者を輩出している。

トランペット

Prof. Eckhard Schmidt (エックハルト・シュミット)

元ベルリンフィルメンバー、現在ハンブルグ国立音楽大学教授、及びハンブルグ国立歌劇場オーケストラメンバー。シュトゥットガルト出身。ドイツ国立シュトゥットガルト音楽大学卒業。自身は、ヨーロッパ各地のオーケストラに迎えられ、世界的著名な指揮者と多数の共演を重ねてきた。長年にわたり、世界的に有名なシュトゥットガルトバッハアカデミーで指導。豊かな経験で名演奏家を育ててきた。

Andrzej Balsam (アンジェイ・バルサム)

ポーランド人。ブラームス音楽大学（コンセルヴァトリウム）トランペット学科主任。ヨーロッパ有数のトランペット教育者 Professor Stefan Hadry の高弟子として、深く研鑽を積む。これが、後年、彼を優れたトランペット教育者にする元となった。ポーランド国立放送交響楽団を経て、ドイツへ活動の本拠を移す。北ドイツ中心に種々の演奏活動。トランペット演奏の本質、「自分の言葉で演奏するのはどうするのか（Prof. Hadry の教育根本＝ヨーロッパの音楽の原点）」に着眼点を置いて指導している。多数の名トランペット奏者を輩出している。

ホルン

Prof. Ab Koster (アブ・コスター)

オランダ生まれの世界一と言われるホルンの巨匠。現在、ドイツ国立ハンブルグ音楽大学ホルン主任教授。及びオランダ王立ハーグ音楽大学教授。自身は著名な演奏家、かつ、教授としても優秀、多数の名奏者を育ててきた。長年ドイツの著名オーケストラ NDR 北ドイツ放送交楽団（現 Elbphilharmonie）で首席奏者を務める。ソロ奏者、室内楽奏者として、国際的に多くの招聘があり高い評価を受けている。

Amanda Kleinbart (アマンダ・クラインバート)

ベルリン・ハンス・アイスラー国立音楽大学卒業。ベルリン E U ユース管弦楽団団員、ベルリンドイツ交響楽団を経てハノーバー国立交響楽団のソロホルン奏者他。ソロ活動は、ドイツ国内音楽コンクールで最高賞受賞。室内楽でドイツで栄誉ある賞を受賞（ARD 2014年）。ドイツ・カンマーフィルハーモニー・プレーメンとカンマーアカデミー・ポツダム等ゲスト奏者。現在、NDR 北ドイツ放送交楽団（現 Elbphilharmonie）ホルン奏者。

Sonja Engelhardt (ソニア・エンゲルハルト)

ドイツ人ホルンソリスト。ドイツ国立ヴェルツブルク音楽大学及びハンブルグ国立音楽大学にて世界的な巨匠 A b K o s t e r 教授に師事。英国のリヴァプールにも留学。ハンブルグ国立音楽大学を優秀で卒業後、ハンブルグを本拠地にソロ活動。オーケストラ客演、スタジオ・演劇ミュージシャン/-komponistin、アレンジャー、（パフォーマンス）アーティストとして多彩に活躍。様々なアートプロジェクト；現代音楽の方面にも意欲を出す。アンサンブル活動はハンブルグの有名ホルンカルテット"Horn4"の一員。最近のプロジェクトでは世界一の最新ホール エルベフィルハーモニー大ホールで演奏を果たした若手のホープ。

Ivan Yefimov (イヴァン・エフィモフ)

ロシア人。オデッサ国立音楽大学卒業。ロシアの名門キエフ国立交響楽団を経て、ドイツ国立シュトゥットガルト音楽大学大学院修了。チューリン交響楽団とホーフ交響楽正式契約首席ホルン奏者、その他多数のドイツのオーケストラで演奏。ヨーロッパ国内での、沢山のプロジェクトやマスターコース開催。後進の指導も熱心で、ハンブルグのブラームス音楽大学（コンセルヴァトリウム）ホルン学科主任として教授活動。現在リューネブルク交響楽団首席ソロ・ホルン奏者。

César Cabañero Martínez (セサル・カバニエロ・マルティネス)

新進気鋭のスペイン人ホルン奏者。グラナダ国立音楽院にて、ホルンの演奏学位を取得。ラ・リオハ大学で音楽学の学位も取得。その後、ハンブルク国立音楽大学にて、大学院修了。修士号及び国家演奏家資格取得。ニューヨーク・フィルハーモニックや NDR エルブフィルハーモニー管弦楽団等、数多くの名オーケストラで演奏。自然ホルン奏者として、バロックワーク・ハンブルク、ハノーファー宮廷管弦楽団、エルビポリス・バロック管弦楽団他とコラボレーションし、ホルンの新しい可能性の追求にも積極的である。丁寧で親切な指導で人気がある。

バイオリン

Stephan Wagner (ステファン・ワーグナー)

1962 年アウグスブルク生まれ。ミュンヘン国立音楽大学を卒業後、アメリカ・ヒューストンとアムステルダムで研鑽を積む。名コンクールにて多数入賞。シュトゥットガルト交響楽団のコンサートマスターを経て、現在は、北ドイツ放送交響楽団第一バイオリンコンサートマスターとして、ドイツ最高峰のオーケストラの一つで活躍。世界中にて、バイオリンソリストとして、協奏曲、演奏会、マスタークラス等招聘される。

Markus Menke (マルクス・メンケ)

ドイツ・ゲルゼンキルヘン生まれ。ドイツ国立ケルン音楽大学卒業。ドイツ、オーストリア等ヨーロッパの各オーケストラの第一ヴァイオリン奏者を経て、現在北ドイツ、リューネブルク交響楽団のコンサートマスターを勤める。オーケストラ活動の傍ら、ドイツを中心に室内楽、ソリストとして各種演奏会、音楽祭に活躍。その親切で丁寧な指導で後進の指導にも尽力、優秀な教師でもある。

ヴィオラ

Prof. Jaab Zeijl (ヤーブ・ツアイール)

ドイツ国立フライブルグ音楽大学卒業。1978年よりハンブルグフィルハーモニービオラ奏者、その後、ドイツ第二の名オーケストラ NDR 北ドイツ放送交楽団（現 Elbphilharmonie）ビオラ首席奏者を長年勤める。ドイツ国立ハノーヴァー音楽大学とハンブルグ音楽大学のビオラ教授歴任。現在世界中で教授活動をするヴィオラ教師。豊かな経験を元に、大きな視野にたった指導には、定評があり、優秀なヴィオラ奏者を輩出している。

Anator Yalosh (アナトール・ヤーロツシュ)

故郷のロシア、キエフのロシア国立リセンコ音楽大学ヴィオラ学科卒業。学生時代より活躍。ポーランドの主要オーケストラ勤務後、ロシアの名門キエフオペラ劇場オーケストラ勤務。その後ドイツに移住、2001年よりハンブルグのクラシックフィルハーモニーのヴィオラ首席奏者。現在ブラームス コンセルヴァトリウムのヴィオラ主任として教授活動。忍耐と暖かな指導は多数のよいヴィオラ奏者を生み出している。

チェロ

Prof. Troels Svane (トロエルス・スヴァーネ)

デンマーク出身。18歳で、コペンハーゲンフィルハーモニー管弦楽団の準首席チェロ奏者に抜擢される。多数の奨学金を受け、ドイツ国立リュベック音楽大学にて学び、首席卒業。数々の国際コンクール入賞。母校で師 David Geringas の助手を11年務めた後、2004年よりリュベック国立音楽大教授、さらに現在ベルリン国立音楽大教授も兼任。教授活動、演奏活動、主要国際コンクール審査委員等活躍している。

Thomas Tyllack (トーマス・ティラック)

ミュンヘン生まれのドイツ人チェリスト。ミュンヘン国立音楽大学で学位、同大学院で修士号取得。世界中の様々なオーケストラやマスタークラス（アルバン・ベルク四重奏団等）で学ぶ。1984年にデュイスブルクのライン・ドイツ・オペラ管弦楽団の首席チェロ奏者に任命された。1986年からハンブルク・フィルハーモニー管弦楽団の首席チェロ奏者を務める。オペラとコンサート舞台でのオーケストラ演奏への情熱に加え、室内楽にも熱心に取り組む。すばらしいチェロの教師として高評、生徒たちに彼の持つ知識と技術を伝える事を、自身大変楽しんでいる。

Olivia Jaremiias (オリビア・ジェレミアス)

英国人。幼少時から著名なチェロ奏者達に師事、ドレスデン国立音楽大学とロンドン王立音楽院を優等で卒業。20歳のとき、ドレスデン国立オペラ、サー・コリン・デーヴィスの指揮によるドヴォルザークのチェロ協奏曲でソロ演奏で大成功デビュー。ヘラン・コンクール（チェロ）で優勝、アントニオ・ジャニグロ・コンクール（ザグレブ）で入賞、国際的な名声を確立。ピエール・フルニエ特別賞を受賞（2004年）。エッセン・フィルハーモニー管弦楽団とチェロ協奏曲公演等、各国の音楽祭に招聘され、ソリストやアンサンブル演奏家として国際的な活動を活発に行う。現在ハンブルク・フィルハーモニー管弦楽団の首席チェロ奏者を務める。教師としても優秀、すばらしい指導をする。

Eduard Mnatsakanov (エドゥアルド・ムナツカノフ)

白ロシア（ベラルーシ）の音楽一家に生まれた。首都ミンスクの才能のある子供のための音楽専門学校で、6歳からチェロを学ぶ。ミンスクの国立音楽アカデミーでチェロを学び、音楽教育と芸術的成熟の学位を取得。在学中、ミンスク・フィルハーモニー交響楽団団員、また室内楽団のソリストとして数多くのコンサートに出演。卒業後、国立放送管弦楽団で働き、世界中で海外公演に参加。ドイツに移住後は、数々のドイツの著名なオーケストラと共演する。国際チェロコンクール「ピーター・コンジョビッチ」（ベオグラード）や「チャイコフスキー子供コンクール」（ハンブルク）の創設者兼常任審査員歴任。

2001年からハンブルク・ブラームス・コンセルヴァトリウム（音楽大学）の教授としてチェロ指導にも重点を置く。40人以上の学生（生徒）が、彼の元でドイツ国家演奏家学位取得、熟練の教師。

注意:

1. 各学科、上記以外にも他に講師がおります。
2. 稀に、都合で講師の変更やレッスンの時間配分が変更になる可能性がありますので、ご了承下さい。

オルガン

Joachim Vogelsänger (ヨアヒム・フォーゲルゼンガー)

ヨアヒム・フォーゲルゼンガー；ドイツのゾースト生まれ。ケルンで教会音楽とチェンバロ、デトモルトで指揮、ウィーンでオルガンを学んだ。オルガン教師であるヴィクトール・ショルツ、マーティン・リュッカー、ミハエル・ラドウスから多大な影響を受け、数多くの国際マスタークラスにも参加。1983年から2002年まではデュッセルドルフのクロイツ教会とヨハネス教会のカントール、2002年からはリュネブルクの聖ヨハネス教会のカントール及び当地の全教会音楽ディレクターを務める。聖ヨハネス教会の、450年以上の歴史を持つオルガンは、彼の本拠でした。彼が、この歴史的な名器で、初めて録音したCDは、このオルガンのオルガニストによる作品のみ収録。2枚目のCDは、「若き日のバッハとその手本」というテーマで、バッハが聖ヨハネス教会のオルガンを訪れ、当時のオルガニストであったゲオルク・ベームから重要なインスピレーションを受けたことにちなんだCD。彼は、交響的合唱オルガン（クーン2010）をCD（「交響的印象」、セザール・フランク、ルイ・ヴィエルヌ、シャルル・マリイ・ヴィドールの楽曲）でも圧倒的な表現で他の追随を許さない。また、後進へのあたたかい指導は、多数の優れたオルガニストを育ててきた。

Haruka Kinoshita (木下啓香)

東京芸術大学オルガン科学部卒業、並びに同学大学院修士課程修了。東京芸術大学アカンサス賞受賞。ハンブルク国立音楽大学大学院修了、ドイツ国家演奏家資格(オルガン)取得。2025年4月に教会音楽科Aの資格をデトモルト国立音楽大学で取得。多数の演奏会で活躍。2022年から、ハンブルクの教会音楽最高峰の一つ、聖カタリーナ教会専属第二オルガニストを、現在務める。